

2月の果実の見通し

平成31年1月30日現在
山形県東京事務所

区分 品目	主産地	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		販売見通し
		前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年 平均	前年実績	前年比 見込	5カ年 平均	前年 入荷量 (t)	前年 占有率 (%)	
りんご類	青森	6,402	115%	6,695	305	やや安	293	63	1.0%	青森県産りんごの本格的な販売シーズンを迎え、少しずつ荷動きは活発化してくる。中心となるサンふじは生育期間中の天候不良などの影響で下等級品やキズ果の発生が例年よりも多くなる見込み。みかんや柑橘類なども前年より出回り量が多く、前年よりも販売競争は厳しいが、販促等も数多く企画されている。下等級品が多いために全体の平均価格は安めだが、少ない上位等級品は例年以上の高値となる可能性もあり。
いちご類	栃木 福岡 静岡 佐賀 ほか	4,623	95%	4,284	1,337	並	1,335	-	-	前年は1月の出荷量が少なく、2月に入ってから各産地の出荷量が増え相場を乱した。本年1月の出荷量は前年に比べ多く、中旬ごろから1果房に続いて2果房の収穫が行なわれ日照量も多くなることで出荷量も増えた。中・下旬からは前進出荷から玉落ちが始まり出荷量が若干落ちて相場も強め基調に。2月には入れれば2果房の出荷ピークに入るが1果房と2果房が連続出荷となるため2果房から3果房への出荷は谷間が出る可能性があり2月下旬から出荷量は減少となるだろう。
キウイ	福岡 和歌山 愛媛 ほか	813	85%	864	487	やや高	477	-	-	ニュージーランド産の輸入量は過去最多となっているが、年明け以降徐々に大玉果を中心に量販店なども国産へとシフトし始めている。価格の手頃な小玉果はもうしばらくニュージーランド産を扱うところも多いが、2月に入れば完全に国産品主体の販売へと切り替わる。全国的に小玉傾向で生産量は前年より少ないことから、2月も入荷量は前年より少なく、単価は一昨年並みを見込む。
みかん類	静岡 長崎 熊本 ほか	7,259	140%	9,209	359	安い	297	-	-	主力となる静岡県産「青島」は前年を大幅に上回る入荷が続く。裏年で平年の7割ほどの数量しかなかった前年と比べれば年始から価格安の状況となっているが、荷動きは良く、1月半ば過ぎから徐々に価格は上げ基調となってきた。2月月初より静岡産の「寿太郎」も出荷開始となり、引き続き前年よりは安めの価格展開が見込まれるが、引合いは強めで荷動きの良さは継続。JAみっかびのレギュラー品は2月中旬でほぼ終了、徳島や香川の普通温州の引き合いも強い。

引用資料:「東京都中央卸売市場における果実の品目別取扱実績」(青果物情報センター)、果実の入荷・市況見通しについて(東京青果株式会社)

入荷量について:「0」はラウンドして1tに満たない入荷があったもの。「-」は本県のデータがないもの(入荷がないか、又は少なかったためにその他の産地に含まれる)